

2023 年度 学校関係者評価委員会 開催記録

開催日時 2023 年 6 月 12 日（月）14：00～16：00

開催場所 専門学校 文化デザイナー学院 6 階プレゼンテーションルーム

委員数 10 名

出席委員 5 名

茨城県中小企業団体中央会 事務局長兼総務企画課長 近藤 哲生

株式会社光和印刷 制作部 部長 岡田 寛和

株式会社関根工務店 代表取締役 関根 貴雄

茨城インテリアコーディネーター協会 補佐 棚井 政江

株式会社根本建築設計事務所 阿久津 裕司（卒業生）

学校職員出席 5 名

学校法人リリー文化学園 本部長 渡邊 忠

専門学校文化デザイナー学院 学校長 荒井 真次

専門学校文化デザイナー学院 教務部長 川上大輔

専門学校文化デザイナー学院 教務副主任 深谷 由貴

専門学校文化デザイナー学院 教務副主任 黒須 菜穂子

委員会次第

■校長挨拶

■2022 年度修了制作展プレゼンテーション&作品画像

・企業・団体等 連携課題実施計画書

■報告事項

・2022 年度活動報告資料

- ①委員名簿
- ②学校運営
- ③教育活動
- ④学修成果
- ⑤学生の受入れ募集
- ⑥社会貢献・地域貢献

・職業実践教育課程の基本情報について「様式 4」

(各委員会意見の活用状況・連携課題実施報告書)

・各委員会 開催記録の報告について

・「2023 年 2 月 4 日・10 日 教育課程編成委員会」

■学校評価（2021 年度）の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

■授業見学

■2022 年度自己点検・自己評価報告書

■協議事項

・評価項目に関する評価

- ①教育理念・目標
- ②学校運営
- ③教育活動
- ④学修成果
- ⑤学生支援
- ⑥教育環境
- ⑦学生の受入れ募集
- ⑧財務
- ⑨法令等の遵守
- ⑩社会貢献・地域貢献
- ⑪国際交流

■本部長挨拶

(委員会の開催)

荒井校長より挨拶。

■報告事項

2022 年度修了制作展、2022 年度の活動報告、職業実践専門課程の基本情報「様式 4」について、前回委員会の開催記録・活用状況、前回の学校評価結果等を川上教務部長より報告。

■授業見学

各学科の授業を見学。見学後、各委員より意見をいただいた。

(岡田委員) 広告プロモーションデザイン学科 1 年生の教室で、学生が入りきらずに別の教室で制作を行っていた。学生が多いのはいい事だが全員一緒の教室で学べた方が良い。ファッションビジネス学科 1 年生は男子が 1 名だけのときに退学に繋がってしまうという事があったので、男子が増えてよかったと思う。

(川上教務部長) 広告プロモーションデザイン学科 1 年生だが、普段は全員が一つの教室で講義を受けている。今回は授業内容が制作の時間だったので、広く使うために教室が分かれていた。

(近藤委員) コロナのときは全員がマスクをしていて表情がよく見えなかったが、今回はマスクを外している学生もいて、明るい表情を見ることができ、楽しそうに授業を受けている事が分かり良かった。

(棚井委員) デザインはコミュニケーション力だと言っていたが、広告プロモーションデザイン学科のカルタ制作のグループワークは意図的にコミュニケーションを取らせていて良い内容だと感じた。まずは好きにならせるという事が大事で、建築設計デザイン学科の模型の授業はスタイルフォームでまず形を考え、次にその中の建築を考えるというプロセスが良い。学生も楽しいと言っていた。

(関根委員) まずは興味を持たせるという事が重要である。最初が楽しくないと次のステップに進めない。今の学生は飽きっぽいので、楽しくないと学校に来なくなり退学に繋がってしまう。最初の半年は、どう楽しませるかという事に重点を置き、授業内容を考えてもいいのかもしれない。プレゼンテーションを行っている授業があったが、やはりマスクをしていると声も聞こえにくい。コミュニケーションを取る事を考えるとマスクを取って、笑顔で 1 年生から過ごせると良いと思う。

（阿久津委員）建築設計デザイン学科の授業では、マスクをしていない学生もいて、楽しみながらクラスの友人と笑い合って制作していたのが印象的だった。まずスタイロフォームで試作して、次に段ボールでの制作に進んだ段階で、全然違うものになっていると学生が言っていた。自分たちもデザインをしていく上でどんどん形が変わっていく事はよくある。考えが広がっていく過程を踏んでいて、学びとしてとても良いと思った。

（関根委員）毎年度、個人情報と著作権についての評価が出てくるが、実施はしているのか。平成 29 年度で講話等の実施が止まっているように見える。

（川上教務部長）今年度は AI と著作権のセミナーを予定している。教務職員も含めて学習の機会を設けるよう、引き続き取り組んでいる。

■協議事項

昨年度の自己点検・自己評価、今後の改善方策等について川上教務部長より説明。各委員が学校の自己点検・自己評価が正当なものかどうかを評価項目ごとに評価した。

評価基準 1 教育理念・目的

○評価表より委員意見

（近藤委員）社会経済環境の変化を捉えた将来構想を抱いており評価できる。

（関根委員）ニーズの把握が的確に出来ているかは色々な分野の方の意見を参考に進めていくのも良いのではないか。

評価基準 2 学校運営

○評価表より委員意見

（近藤委員）情報システム化推進により業務の効率化が図られている。

（関根委員）コンプライアンスは日々意識しながら学生にも教えてほしい。

評価基準3 教育活動

○評価表より委員意見

（近藤委員）キャリア教育、職業教育の重要性を考慮し、カリキュラムの強化が必要。

（岡田委員）ファッションビジネス学科に SNS の授業が追加され、時代のニーズに合わせたカリキュラムを常に検討している。広告プロモーションデザイン学科でも SNS の学習を取り入れてもいいかもしれない。AI の発達によりソフトの機能も急激に変化している。最新の機能を学生に教えるために教員のレベルアップも課題になる。

（関根委員）AI や ChatGPT の普及により、学生の調べる力が加速するだろう。指導する立場としては、学校関係者自身も自己研鑽が必要。

（棚井委員）学生が目標を見失わないように、手順を追ってきめ細かなプログラムを組んでおり、また、見直しが図られている事が評価できる。

（阿久津委員）授業見学の際、「役割を決めない」というルールでグループワークを行っており、これからのデザイナーはフリーランスが活躍の場を広げていくと思うので、横との連携を学べる良い授業だと感じた。

評価基準4 修学成果

○評価表より委員意見

（近藤委員）退学者を更に低減するため、これまで以上にきめ細かい体制整備、対策等を講ずるべき。

（関根委員）資格取得によって社会に出た際に強みになることを学生にしっかり伝えてほしい。退学率が低い事はとても良い環境だと思う。

（棚井委員）資格取得に関して、合格率が上がっている事は評価できる。

（阿久津委員）資格取得は本人のやる気も必要なので、取得率を上げる事は大変だと思うが、引き続きやる気の継続と向上を図ってほしい。

評価基準 5 学生支援

○評価表より委員意見

（近藤委員）保護者とどのように連携しているのか具体的な内容を知りたい。

（関根委員）生活支援は出来る限り、続けてほしい。

評価基準 6 教育環境

○評価表より委員意見

（近藤委員）施設・設備の改善・整備が進められている。

（岡田委員）学外活動のため保険を準備するなど安全対策が講じられている。コンプライアンス的な指導も行われていると思うが、思いがけない事故が発生する場合もある。管理、対応や準備が年々大変だと思うが学校も企業も力を入れていかなければならない。

（関根委員）学生を守るためにも防災面の整備は継続してほしい。

評価基準 7 学生の受け入れ募集

○評価表より委員意見

（関根委員）学校 PR 活動の方法も時代のニーズに沿って進めていく事が重要になってくる。

（阿久津委員）広報としてインスタを取り入れた事は高校生により学校を身近に感じてもらい、気軽に学校と連絡ができる事が入学に繋がったと思う。

評価基準 8 財務

○評価表より委員意見

（近藤委員）少子化に対応できるよう、これまで以上に中長期的視点で財政基盤を強固にするための対策が必要である。

（関根委員）財政基盤が中長期的に安定していることは健全経営に繋がっていると判断できる。

評価基準 9 法令等の遵守

○評価表より委員意見

（関根委員）著作権、個人情報保護など、社会に出る前に教育してほしい。

評価基準 10 社会貢献・地域貢献

○評価表より委員意見

（近藤委員）企業・団体・自治体等の連携をさらに強化し、実践的な学びを身に付けてほしい。

（岡田委員）学外活動のテーマや課題が年々レベルアップしている。

（関根委員）学生による地域社会との関わりにより、社会貢献・地域貢献は大変良く出来ている。

（棚井委員）地域と連携しての取り組みは企業も学生も学校においても良い試みになっている。

各評価項目の評価終了。

渡邊本部長より閉会挨拶。

委員会終了。

なお、本日の審議事項については所要の手続きを経て教務会議にて報告する。

上記の通り確認する。

2023年6月30日

学校法人 リリー文化学園
専門学校 文化デザイナー学院
校長 荒井 真次

2023 年度 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果	活用状況
授業見学後の委員意見	◆随時対応 対象：全学科全学年 授業：
①(岡田委員) 広告プロモーションデザイン学科 1 年生の教室で、学生が入りきらずに別の教室で制作を行っていた。学生が多いのはいい事だが全員一緒の教室で学べた方が良い。ファッションビジネス学科 1 年生は男子が 1 名だけのときに退学に繋がってしまうという事があったので、男子が増えてよかったと思う。 ②(近藤委員) コロナのときは全員がマスクをしていて表情がよく見えなかったが、今回はマスクを外している学生もいて、明るい表情を見ることができ、楽しそうに授業を受けている事が分かり良かった。 ③(棚井委員) デザインはコミュニケーション力だと言っていたが、広告プロモーションデザイン学科のカルタ制作のグループワークは意図的にコミュニケーションを取らせていて良い内容だと感じた。まずは好きにならせるという事が大事で、建築設計デザイン学科の模型の授業はスタイロフォームでまず形を考え、次にその中の建築を考えるというプロセスが良い。学生も楽しいと言っていた。	① 教室は人数の多いクラスも一度に講義を受けることができるように整備している。グループ制作や実習を行う場合は一時的に使用教室を分けて授業を行うこともある。基本的には 1 教室で授業を実施している。男女比に関しては、毎年度の入学生の状況によって変わるものだが、男子が1名でも問題なく卒業していく学生もいる。傾向としては女子の比率が多い分野であり、男女のバランスをとることも大切だが、クラス全体のモチベーションを上げることやコミュニケーションがとれるよう運営に気を付けていきたい。 ② マスクの着用については、5類移行後はコミュニケーションの面から外すことが大切だと考えている。デザインの学習にコミュニケーションは重要であり、マスクは円滑なコミュニケーションを妨げるものであると考える。コロナ禍で高校生活をマスクをつけて過ごしてきた学生も入学しており、マスクを外すことに躊躇うこともあるが、感染症対策は引き続き継続しながら対応をとっていきたい。 ③ チームで活動しアイデアをまとめ、デザインとして形にすることは重要な学習である。相手の意見を受け入れたり、考えていることを理解することは、デザイナーに必要なコミュニケーション力であるため、クラス内でトレーニングを行い、将来的にはクライアントとの円滑なコミュニケーションにつなげていきたい。1年生の授業では自己表現を伸ばす課題が多い。自分の好きなことや感性をいかし、楽しみながらデザインの学習につなげていくことがモチベーションにつながっていると感じる。

学校関係者評価結果	活用状況
授業見学後の委員意見	◆随時対応 対象：全学科全学年 授業：
④(関根委員)まずは興味を持たせるという事が重要である。最初が楽しくないと次のステップに進めない。今の学生は飽きっぽいので、楽しくないと学校に来なくなり退学に繋がってしまう。最初の半年は、どう楽しませるかという事に重点を置き、授業内容を考えてもいいのかもしれない。プレゼンテーションを行っている授業があったが、やはりマスクをしていると声も聞こえにくい。コミュニケーションを取る事を考えるとマスクを取って、笑顔で1年生から過ごせると良いと思う。 ⑤(阿久津委員)建築設計デザイン学科の授業では、マスクをしていない学生もいて、楽しみながらクラスの友人と笑い合って制作していたのが印象的だった。まずスタイロフォームで試作して、次に段ボールでの制作に進んだ段階で、全然違うものになっていると学生が言っていた。自分たちもデザインをしていく上でどんどん形が変わっていく事はよくある。考えが広がっていく過程を踏んでいて、学びとしてとても良いと思った。	④ 1年生は入学後で環境が大きく変わりつまずきやすい時期であり、ひとつひとつの小さな壁を乗り越えていけるように注意を払う必要がある。困難を乗り越える力になるのは、専門分野の学習に興味を持たせ、楽しい・面白いという気持ちを持たせることだと思う。講師会では授業へのモチベーションを高める成功例を共有したり、講師同士で意見交換を実施している。コロナ5類移行により、生活様式が以前に戻りつつあるが、プレゼンテーションの場では自分の考えを伝えるよりよい方法として、マスクを外して発表に臨むなどマスクのTPOも身に付けられると良いと思う。 ⑤ 楽しみながら学ぶことは大切である。デザインを考えることも楽しめることで、よりよいアイデアを生むことにつながる。そして、1年生ではデザインを考えるプロセスをしっかりと身に付けることが大切である。コミュニケーションの部分でもマスクを外すことで表情が見てとれ、円滑な人間関係の構築につながると思う。

2023年前期講師会

研修グループワーク議事録 テーマ「主体性を育むためには？」

①学生に主体性を考えさせるような会話や工夫など、普段どんな事を心がけていますか？

②学生に主体性について考えてもらうために、どんなやりとりが必要だと思いますか？

班	お話された方	内容	班	お話された方	内容
A	坂本先生	仕事のように課題を振るアウトプットの引き出し →学生のアウトプットの機会や内容を受け止め、認める場の必要性	E	中村先生	やりたいことを引き出す為に、建築以外の生徒が興味があることと繋げ会話 ↳●●先生から言われたからやるではなく、自らやりたいことを見つけさせる 自分の得意な事を気づかせる →講師の先生方も広く関心のアンテナ立てることの重要性。 講師の先生方の社会経験などを伝えながら、学生の興味と今の学びを紐づけて会話すると学生は共感しやすいのでは？
B	石橋先生	生徒に自信を持たせることが大切 ↳小さな事でも、成功体験を重ねる事で生徒の変化が起きる大前提として、生徒に資格を取ってもらいたい。 ↳生徒の個人差がある中で、伝えたい事をシャープに →スモールウィンを積み上げる指導やコミュニケーションの重要性	F	渡邊先生	主体性を育むために、見守る事も大切 ↳基礎技術と自分らしさのバランス 多様な学生に対して、自信をつけさせる ↳声掛け・ほめる・アウトプットする場（発表）など皆が見ている場で実施
C	飯村先生	授業と授業が点ではなく、線となるようにしていく ↳先生同士のコミュニケーションや情報共有をもっとつくっていきけると○ 発言しやすい環境づくり（制作テーマの時など） →講師の先生方が適宜つながることができるオンラインコミュニケーションの場などがあってもいいかも			

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 1 教育理念・目的	◆随時対応 対象：全学科全学年 授業：
⑥（近藤委員）社会経済環境の変化を捉えた将来構想を抱いており評価できる。 ⑦（関根委員）ニーズの把握が的確に出来ているかは色々な分野の方の意見を参考に進めていくのも良いのではないか。	⑥ chatGPT といった AI の進歩が始まり社会が目まぐるしく変化しはじめていることを実感している。それに伴って、社会で活躍できる人材に求められる資質も変わってくるので、変化に対してどのような学校運営を行っていくのかを考えていかななくてはならない。デザインの分野では、AI がデザインを生成できる。クライアントの課題を解決する力を持ったデザイナー、AI を使ってデザインを提案できるような人材が求められる。 ⑦ 本校の持つどの分野に関しても、複合的な技術や考え方が必要になってきている。広告プロモーションデザインデザイン学科では、映像の授業を必修科目にし、ファッションビジネス学科では、SNS の授業を取り入れた。建築設計デザイン学科ではコミュニティデザインの授業でワークショップを行いながら課題を進めるなど各領域が広がってきている。今後のカリキュラムを構成する上でも、色々な分野の方の意見をいただくことも良いと思う。その上で、地方都市にあるデザイン学校として、どういった人材が相応しいのか学校側も適切に判断する力が必要であり、教育目標と教育方針を決めている。それを軸として、大きく変動している最新の技術を注視しながら、情報に惑わされないよう整理し、授業に取り入れていきたい。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 2 学校運営	◆引き続き対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：
⑧ （近藤委員）情報システム化推進により業務の効率化が図られている。 ⑨（関根委員）コンプライアンスは日々意識しながら学生にも教えてほしい。	⑧ AIの発達は目まぐるしい速度で進んでいる。積極的に導入を進めていきたいが、様々な業務の中で、人が担う部分とAIを活用できる部分を見極めることが大切だと考える。それに伴い、人が担う役割も変化することが予想される。自社の業務を理解し、AI技術を効果的に導入していくためのDX人材の育成も求められる。2023年度は出欠管理システムの導入に取り組んでいく計画である。クラウドで出欠を管理することで、学生も自由にいつでも見ることができ、業務の効率化になる。 ⑨ デザイナーとしての技術だけでなく、社会人としての良識を持つ人材を育てることも大切である。SNSが普及し情報の拡散スピードが著しい社会では、情報の取り扱い方やモラルのない行動が企業にとって社会的な問題につながるケースもある。また、近年コロナの影響でコミュニケーションに苦手意識を持つ学生もいる。前向きな気持ちを持ち、社会に貢献性の高い人材も目指したい。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 3 教育活動	◆即対応 対象：学校運営・講師 授業：
⑩(近藤委員)キャリア教育、職業教育の重要性を考慮し、カリキュラムの強化が必要。 ⑪(岡田委員)ファッションビジネス学科に SNS の授業が追加され、時代のニーズに合わせたカリキュラムを常に検討している。広告プロモーションデザイン学科でも SNS の学習を取り入れてもいいかもしれない。AI の発達によりソフトの機能も急激に変化している。最新の機能を学生に教えるために教員のレベルアップも課題になる。 ⑫(関根委員)AI や ChatGPT の普及により、学生の調べる力が加速するだろう。指導する立場としては、学校関係者自身も自己研鑽が必要。 ⑬(棚井委員)学生が目標を見失わないように、手順を追ってきめ細かなプログラムを組んでおり、また、見直しが図られている事が評価できる。 ⑭(阿久津委員)授業見学の際、「役割を決めない」というルールでグループワークを行っており、これからのデザイナーはフリーランスが活躍の場を広げていくと思うので、横との連携を学べる良い授業だと感じた。	⑩ 将来を見据えること、職業人としての社会性を磨くことは専門学校の社会的役割である。近年は高校生の学び方も多様化しており、通信制高校出身の学生も多くなっている。昨年から自己発見プログラムを実施し、キャリア教育にも新しい試みを行った。 ⑪ 販売促進に SNS は欠かせないツールになっている。広告プロモーションデザイン学科でも SNS の提案を行っているが、もっと踏み込んだ提案が求められてきている。また、プロのデザイナーも AI を仕事に活用していると聞く。講師や教務職員については、講師会や各講演会などで研修を行っている。指導できる人材も確保していかななくてはならないので、つながりや情報収集に努めたい。 ⑫ AI のメリットやデメリット、強みや弱みを理解し、使いこなせる人材になることが大切である。情報収集の上で AI の恩恵は大きいですが、現段階の AI は誤った情報も多く真偽を判断するリテラシーが求められる。一方で、デザイナーとしても AI の情報だけでクライアントを理解できるとはいけない。本質的な課題を発見し解決していくためには、クライアントとのコミュニケーションや現場を見る・体験することが欠かせないということも理解する必要がある。この先の未来においては、誰もが必要な必要な知識となってくるであろう。 ⑬ 学生はコロナの影響や社会情勢が不安な中で、将来にポジティブな目標や夢を描きにくくなっているかもしれない。また、自己肯定感が低いということも言われているため、つまりきそうなポイントに注意し、ひとつひとつ壁を乗り越えていけるような道筋を作ることが指導のポイントと感じる。資格対策をはじめ、様々なプロジェクトの実施にあたっては、講師の打合せを行いながらプロセスを構築している。 ⑭ 自分の役割を見つけて行動することは大切で、グループワークを中心に進める授業も行っている。予測ができない時代や多様化する社会の中でプロジェクトを進めていくには、1 人の力だけで新しい発想を生みだしたり、変化に対応することは難しい。また、デザイン分野の人材はもちろん、専門分野や国籍、価値観の異なるメンバーと協働し、成果を上げる力が求められる。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準4 修学成果	◆引き続き対応 対象：学校運営・全学科全学年 授業：就職活動に関わる授業
⑮(近藤委員)退学者を更に低減するため、これまで以上にきめ細かい体制整備、対策等を講ずるべき。 ⑯(関根委員)資格取得によって社会に出た際に強みになることを学生にしっかり伝えてほしい。退学率が低い事はとても良い環境だと思う。 ⑰(棚井委員)資格取得に関して、合格率が上がっている事は評価できる。 ⑱(阿久津委員)資格取得は本人のやる気も必要なので、取得率を上げる事は大変だと思うが、引き続きやる気の継続と向上を図ってほしい。	⑮ 退学の理由には、精神的な病気、方向性、学習意欲などがあげられるが、年間を通した個人面談をはじめ、学校全体の取り組みとして、自己発見プログラムを実施している。能力は高くてもなかなか自分に自信が持てない学生も増えてきているように感じている。モチベーションを上げて、自己肯定感を高める指導方法についても教務・講師が講師会などを通して話し合っているテーマでもある。学生には目標を持って学校生活を送ることを常に意識づけている。 ⑯ 資格の大切さはキャリアデザインの授業をはじめ様々な場面で学生に意識づけている。資格が取得できることはもちろん大切で、自信やさらに高い目標を持つことにつながる。また、合格につながらなくとも、合格を目指して勉強に取り組んだ経験は、やり抜く力や主体性が育まれ、その他の学校生活にも繋がると思う。クラス全体で合格を目指そうとする雰囲気づくりはクラス運営面でも効果がある。 ⑰ 資格合格率は毎年集計し、講師を交えて振り返りを行っている。資格対策講座を設け授業を行っているが、キャリアデザインの授業内や授業外の時間も利用し過去問題の演習など資格取得に向けて取り組んでいる。また、インテリアコーディネーター資格に関しては、特に対策に力を入れており、夏休み期間にも講習を実施している。 ⑱ やる気はとても大事で、学生の吸収力は気持ちひとつで大きな成長につながる。学校の指導としては、自己発見プログラムをはじめとして、学生のモチベーションを高める取り組みを行っている。授業の進め方としても、見学会を設けるなど工夫をし、意欲の継続と向上を図っている。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 5 学生支援	◆継続的に対応 対象：学校運営全学科全学年 授業：
⑱(近藤委員)保護者とどのように連携しているのか具体的な内容を知りたい。 ⑳(関根委員)生活支援は出来る限り、続けてほしい。	⑱ 全体に向けては入学時に保護者説明会を開催し、教育方針や履修規則など本校で学校生活を送るための理解を図っている。年間の行事の中でも、修了制作展の開催時には、各家庭に案内を出しており、毎年多くの保護者が来校され、教育内容の理解につながっている。また、日々の学校生活の中でも、出欠や課題等に関する問題がある学生については保護者への電話連絡を日常的に行っており、内容によっては面談を設けるなど、保護者とのコミュニケーションを積極的に行っている。 ⑳ 日本学生支援機構の新型コロナウイルス感染症に対する補助金を申請し、衛生設備の整備やイベントでの食事提供、教材費などの支援を行うことができた。今後も積極的に取り組んでいきたい。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 6 教育環境	◆継続的に対応 対象：学校 授業：
②①(近藤委員) 施設・設備の改善・整備が進められている。 ②②(岡田委員) 学外活動のため保険を準備するなど安全対策が講じられている。コンプライアンス的な指導も行われていると思うが、思いがけない事故が発生する場合もある。管理、対応や準備が年々大変だと思うが学校も企業も力を入れていかなければならない。 ②③(関根委員) 学生を守るためにも防災面の整備は継続してほしい。	学生数の増加に伴い、中長期的に教室環境の整備を計画している。2022年度からは2024年度の運営を想定した打合せを進めている。防災対策としても、2023年度に6F/7Fの整備に取り掛かる予定である。 学生保険には毎年加入しており、通常授業や課外活動、通学時の怪我や事故に対してのフォロー体制を整えている。また、県の指導に従い各安全対策を講じている。具体的には、教室環境の安全、自転車・自動車の交通安全、熱中症などの健康面などが挙げられる。近年のSNS動画の訴訟問題は記憶に新しく、情報が誰でも気軽に発信できる社会になりインターネットのモラルも求められる。 ソフト面としては、防災・防犯マニュアルを策定し職員間で共有している。学校全体で避難訓練も毎年実施し、防災対策を行っている。見直しを行いながら時代に即した対応が社会的にも求められる。ハード面としては、2F/3F/5Fの防災工事が完了し、引き続き整備を実施していく。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 7 学生の受け入れ募集	◆継続的に対応 対象：学校 授業：
②④(関根委員)学校 PR 活動の方法も時代のニーズに沿って進めていく事が重要になってくる。 ②⑤(阿久津委員)広報としてインスタを取り入れた事は高校生により学校を身近に感じてもらい、気軽に学校と連絡ができる事が入学に繋がったと思う。	オンライン、オフライン上で様々な情報が溢れる時代では、情報を一様に流すだけでは届きにくくなっている。近年は位置情報を利用したSNS広告配信を実施している。コロナ5類移行後、高校説明会など対面での広報はほぼコロナ前の水準に戻ってきているが、今後も継続して実施していきたい。 ②⑤インスタグラム運営は学校としても 2022 年の大きな目標であった。初年度は、投稿頻度や内容、制作の仕組み化ができて運用を軌道に乗せることができた。次年度以降はさらに運営を続けることで、広告効果も期待できるものにしていきたい。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 8 財務	◆継続的に対応 対象：全学科全学年 授業：
②⑥(近藤委員) 少子化に対応できるよう、これまで以上に中長期的視点で財政基盤を強固にするための対策が必要である。 ②⑦(関根委員) 財政基盤が中長期的に安定していることは健全経営に繋がっていると判断できる。	少子化の影響は、平均的に各学校の募集が減少するのではなく、二極化されている。選ばれる学校になることで、少子化の中でも募集を増やせる可能性もあると言える。そのような中で、積極的なチャレンジが求められる。 近年の入学生の増加は在学期間の財政安定に繋がっている。一方で、電気・水道・ガス代等の光熱水費の高騰は著しく、各授業で必要な教材費に関しても同様に物価が上がっている。社会情勢を鑑みて、施設設備費に関しては 2024 年度入学生より値上げを行う。今後も節電節約の意識を持って学校運営を行っていきたい。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 9 法令等の遵守	◆継続的に対応 対象：全学科全学年 授業：
⑳(関根委員)著作権、個人情報保護など、社会に出る前に教育してほしい。 毎年度、個人情報と著作権についての評価が出てくるが、実施はしているのか。平成 29 年度で講話等の実施が止まっているように見える。	㉔講話以外にも、教務職員に関しては、著作権法が改正され「授業目的公衆送信補償金制度」が創設されたことから内容の理解を図っている。学生に関しては、PC リテラシーの授業などで情報モラルや情報漏洩に関する理解を深める学習や、個人情報保護の重要性、映像や音楽、画像を使用する場合の著作権に関するリテラシーや引用のルールを学んでいる。全クラスキャリアデザインの授業でも情報モラルの指導を行っており、ソーシャルメディアやインターネットの利用にあたっての個人情報や著作権の理解を深めている。講話の実施は 2020 年に計画をしていたところだったが、コロナの影響もあり開催ができていなかった。2023年 6 月には、オンライン視聴の講義を利用して学生に学習の機会を設けた。

学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準 10 社会貢献・地域貢献	◆継続的に対応 対象：学校 授業：
㊹(近藤委員)企業・団体・自治体等の連携をさらに強化し、実践的な学びを身に付けてほしい。 ㊺(岡田委員)学外活動のテーマや課題が年々レベルアップしている。 ㊻(関根委員)学生による地域社会との関わりにより、社会貢献・地域貢献は大変良く出来ている。 ㊼(棚井委員)地域と連携しての取り組みは企業も学生も学校においても良い試みになっている。	㊹㊻㊼地域で活躍できる人材を育成するためには、この地域に合ったデザインを提案することが求められる。そのためには、企業等と連携しリアルな社会課題の解決に取り組むことが学習題材として最適であると考えている。授業での取り組み方や単年～複数年の連携の可能性など、企業等との連携を通じた学習をさらに深めることも意識していきたい。また、このような取り組みを対外的にも学内にも周知することも大切であり、学校の魅力の見える化につながる。 ㊺2023年度の学校運営では連携課題の進化を目標のひとつに掲げている。近年の修了制作展では、クライアントやユーザーとコミュニケーションの機会を増やしている。意見交換ワークショップの実施やイベントでアンケート調査を行うなど、顧客理解や課題制作のヒントにつながっている。また、学生自身も直接話を聞くことや地域に足を運んでさまざまな体験をすることで、課題への取り組み方に主体性やモチベーションが高まると感じている。さらに深い学習に繋がるようにレベルアップを図っていきたい。

評価基準 1 教育理念・目的

I 教育理念
II 教育目標
III 教育方針
IV 年度目標

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切	
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	学校の理念・目的・人材像・特色・将来構想などが学生保護者に周知されているか	④ 3 2 1	4 ③ 2 1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか。	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

今後の改善方策

③国の方針として理工系人材の育成戦略が立てられており、理工農系の学部・学科の学生に対して授業料負担軽減の支援拡大が予定されていることから社会のニーズが高まっている。建築設計デザイン学科では、そのような状況に合わせて、学生募集の新たな方法として、2023年度に建築士特待生推薦入学制度を設立する。また、6月には新たな就学支援制度の枠組みに当てはまるか確認するアンケートに回答している。職業実践専門課程認定校、二級建築士の試験合格後登録0年認定校、一級建築士は試験合格後登録4年認定校である事も伝えており、当然認められると自負している。

委員特記事項

(近藤委員)社会経済環境の変化を捉えた将来構想を抱いており評価できる。

(関根委員)ニーズの把握が的確に出来ているかは色々な分野の方の意見を参考に進めていくのも良いのではないかな。

評価基準 2 学校運営

- I 学校運営の方針
- II 授業計画
- III 学校組織のありかた
- IV 意志決定のプロセス
- V 業務の効率化

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
6	業界や地域社会に対するコンプライアンスが整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7	教育活動等に関する情報公開が適切にされている	④ 3 2 1	④ 3 2 1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られている	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

- ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- ④人事、給与に関する規程等は整備されているか
- ⑧情報システム化等による業務の効率化が図られている

今後の改善方策

- ③④2022年度も改定した就業規則・諸規定を運用し常勤職員、非常勤講師ともに労務が適正に管理された。常勤の教務職員についてもほぼ定刻退勤を実行でき、代休取得も計画通りに進んだ。
- ⑧教務業務のスケジュール管理や学生の課題データ提出用のクラウドシステムを近年導入しておりDX化が推進している。今後は出欠管理、成績表、授業アンケートなどの事務業務を電子・自動化することで更なる業務改善を図っていきたい。

委員特記事項

(近藤委員)情報システム化推進により業務の効率化が図られている。

(関根委員)コンプライアンスは日々意識しながら学生にも教えてほしい。

評価基準 3 教育活動

- I 学科編成における全学科を通しての共通な特徴
- II 各学科の概要
- III カリキュラム
- IV 単位認定・成績評価の考え方
- V 資格取得・国家資格に向けた授業
- VI 業界との協力体制
- VII 企業・団体等連携授業
- VIII 業界からの授業成果に関する協力
- IX 修了制作展 作品の展示
- X 実践的な職業教育(インターンシップ)

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携による、インターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
10	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

11	人材育成の目標を達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
15	修了制作展において課題の方向性は合っているか。また、プレゼンテーションは適切に行われているか。	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

⑬関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか

今後の改善方策

⑬2022年度はリクルート様の協力で全6回の自己発見プログラムを実施した。学生の価値観ややりたいことを見つめ直し、日々の学習と紐づけることで、意欲や目的意識の向上に努めた。今後教務職員が主体となり指導を行う上で資質向上につながった。次年度以降も継続し、学生の意欲向上や退学防止につなげていきたい。

委員特記事項

（近藤委員）キャリア教育、職業教育の重要性を考慮し、カリキュラムの強化が必要。

（岡田委員）ファッションビジネス学科にSNSの授業が追加され、時代のニーズに合わせたカリキュラムを常に検討している。広告プロモーションデザイン学科でもSNSの学習を取り入れてもいいかもしれない。

AIの発達によりソフトの機能も急激に変化している。最新の機能を学生に教えるために教員のレベルアップも課題になる。

（関根委員）AIやChatGPTの普及により、学生の調べる力が加速するだろう。指導する立場としては、学校関係者自身も自己研鑽が必要。

（棚井委員）学生が目標を見失わないように、手順を追ってきめ細かなプログラムを組んでおり、また、見直しが図られている事が評価できる。

（阿久津委員）授業見学の際、「役割を決めない」というルールでグループワークを行っており、これからのデザイナーはフリーランスが活躍の場を広げていくと思うので、横との連携を学べる良い授業だと感じた。

評価基準 4 修学成果

- I 就職指導の全体方針
- II 就職目標設定と27年度報告
- III 就職に対する本校の特徴
- IV 就職指導体制

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	在校生は、面接時に必要な自己アピール力を整えているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
2	就職プログラム（企業訪問・求人票送付・模擬面接・卒業生を囲む会等）は適切にスケジュールされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
5	退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
6	卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

- ④資格取得率の向上が図られているか
- ⑤退学率の低減が図られているか

今後の改善方策

- ④インテリア＆家具クラフト学科のインテリアコーディネーターの資格試験に関しては、42.9%の合格率となった。全国平均値の24.5%を超える結果ではあるが、合格ラインにわずかに届かず不合格となっている学生もあり、更に合格率の向上を図っていきたい
- ⑤退学率は平均値として6%台の結果となった。専門学校における平均的な退学率が10%以上とされている中、退学防止に一定の成果が見られた。精神的に弱い学生が増えてきている中、個人面談や保護者と連携図り対応することを継続していきたい。また、対応する教務職員への負担も考慮する必要がある。

委員特記事項

(近藤委員)退学者を更に低減するため、これまで以上にきめ細かい体制整備、対策等を講ずるべき。

(関根委員)資格取得によって社会に出た際に強みになることを学生にしっかり伝えてほしい。退学率が低い事はとても良い環境だと思う。

(棚井委員)資格取得に関して、合格率が上がっている事は評価できる。

(阿久津委員)資格取得は本人のやる気も必要なので、取得率を上げる事は大変だと思うが、引き続きやる気の継続と向上を図ってほしい。

評価基準 5 学生支援

I 学生支援体制

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	学生相談に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	学生にたいする経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	学生の健康管理を行う体制は整備されているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
5	学生の生活支援に対する支援体制は行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
6	保護者と適切に連動しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7	卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

- ⑤学生の生活支援に対する支援体制は行われているか
⑦卒業生への支援体制はあるか

今後の改善方策

- ⑤2022年度は日本学生支援機構の新型コロナウイルス感染症対策助成金に申請し、食料品・飲料品の現物支給、衛生器具を購入した。このような支援制度を引き続き積極的に活用していきたい。
⑦卒業時の就職未定者に対しては、就職支援を卒業後も継続している。

委員特記事項

(近藤委員) 保護者とどのように連携しているのか具体的な内容を知りたい。

(関根委員) 生活支援は出来る限り、続けてほしい。

評価基準 6 教育環境

- I 施設・設備状況
- II 防災・災害に対する対応
- III 保険への加入

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
3	防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

- ①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか
- ③防災に対する体制は整備されているか

今後の改善方策

- ①2023年度の学生数に合わせて教室環境の整備を行い、L501教室とL504教室を大教室に変更した。また、2024年度生の募集状況によっては教室を増やす必要があるため次年度も引き続き検討事項としていきたい。
- ③防災面の整備として5Fフロアの界壁工事を実施した。引き続き6F、7Fの整備を計画している。

委員特記事項

(近藤委員)施設・設備の改善・整備が進められている。

(岡田委員)学外活動のため保険を準備するなど安全対策が講じられている。コンプライアンス的な指導も行われていると思うが、思いがけない事故が発生する場合もある。管理、対応や準備が年々大変だと思うが学校も企業も力を入れていかなければならない。

(関根委員)学生を守るためにも防災面の整備は継続してほしい。

評価基準 7 学生の受け入れ募集

- I 募集の動き
- II 広報媒体
- III 募集体制
- IV 学費

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	学生募集活動は適正に行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	体験入学会のメニューは本校の内容と合っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	高等学校への直接訪問を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

- ①学生募集活動は適正に行われているか
- ③学納金は妥当なものとなっているか

今後の改善方策

- ①2022年度募集も好調を維持できた。新たな広報としてSNSを用いたジオターゲティング広告を取り入れることもでき次年度の広報にも取り入れる予定である。
- ③物価高の影響が大きく、インフラや衛生管理の経費が増大した。本校の学納金は県内他校と比較しても平均水準以下であり、学納金を変更する。2023年度に学則変更を行い、2024年に学費の維持費を増額する。

委員特記事項

(関根委員) 学校PR活動の方法も時代のニーズに沿って進めていく事が重要になってくる。

(阿久津委員) 広報としてインスタを取り入れた事は高校生により学校を身近に感じてもらい、気軽に学校と連絡ができる事が入学に繋がったと思う。

評価基準 8 財務

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	財務について会計監査が適切に行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	財務情報公開の体制整備は出来ているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか

今後の改善方策

①2022年度も多くの学生を迎え入れたことで、中長期的な安定性がさらに向上した。2023年度募集は18歳人口が底となる。募集活動ではSNS広告の継続や新設した建築士特待生制度をPRして好調を維持し、運営面では経費削減と退学率の低減に努めていきたい。また、補助金などの公的な支援の活用にも取り組んでいきたい。

委員特記事項

(近藤委員) 少子化に対応できるよう、これまで以上に中長期的視点で財政基盤を強固にするための対策が必要である。

(関根委員) 財政基盤が中長期的に安定していることは健全経営に繋がっていると判断できる。

評価基準 9 法令等の遵守

I 個人情報の保護

II 学校自己点検・自己評価

III 学生作品と著作権の問題

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	自己評価の結果を公開しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	著作権について学生は理解しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1

課題

②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

今後の改善方策

これまでインターネット回線は、1本の回線を個人情報扱う教務用と学生用に分けて対応をしていた。学内のインターネット機器の入れ替えにともない、教務用と学生用の回線を2本に分けて再構築した。教務用の回線はセキュリティが高める設定も行っており、情報の保守性が高まった。

委員特記事項

(関根委員) 著作権、個人情報保護など、社会に出る前に教育してほしい。

評価基準 10 社会貢献・地域貢献

I 企業・団体等連携の成果

II 企業・団体等連携の一覧

評価項目	学校自己評価	委員評価
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切
1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2 学生の自由参加による社会貢献度の高い地域連携ボランティアを奨励、支援しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
3 取り上げる「テーマ」は教育効果や地域への貢献度等の基本的要件を満たしているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4 企業・団体等連携授業において、良い評価をいただいているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

今後の改善方策

①2022年度は修了制作の一環として、水戸市教育委員会次世代エキスパート事業と連携し、水戸市内の小中学生とともに学習プログラムを行った。2023年5月からは新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、イベントや様々な活動が再開することが予想される。社会貢献の意味も含め、学内では体験できない活動の機会も大切にしたい。

委員特記事項

(近藤委員)企業・団体・自治体等の連携をさらに強化し、実践的な学びを身に付けてほしい。

(岡田委員)学外活動のテーマや課題が年々レベルアップしている。

(関根委員)学生による地域社会との関わりにより、社会貢献・地域貢献は大変良く出来ている。

(棚井委員)地域と連携しての取り組みは企業も学生も学校においても良い試みになっている。